

## アトピー性皮膚炎の治療

のもと皮膚科クリニック 野本 重敏

(2005年4月25日放送)

### Q アトピー性皮膚炎の治療とは？

A 現在いろいろな情報がメディアにあふれておりまして、かなり混乱している状況です。今回は一部の医療機関による特殊な治療法ではなくて、いわゆる標準的な治療についてお話しします。

### Q 治療の目標とは？

A 残念ながら現時点ではアトピー性皮膚炎を治療によって完治させることはできません。完治というのを目標にしてしまうと必ず行き詰まってしまう。そうしますと民間療法や一部の不適切な治療に手を出してしまうことにもなりかねません。完治はしないまでも適切な治療によってよい状態に保つことは可能ですし、それによって日常生活を支障なく送ることができます。アトピー性皮膚炎の治療の目標をどこに置くかということになりますと、現時点では完治ではなく良好な状態にコントロールすることを目標としていただきたいと思います。

### Q 症状をまずは和らげる事を目標にするのですね。

A 完治はしないまでも、適切な治療によってよい状態に保つことは可能ですし、それによって日常生活を支障なく送ることができます。

### Q クリニックではどんな治療を紹介してもらえるのでしょうか？

A 治療の3つの柱があります。

#### 環境の整備

ダニ、ホコリなどのアレルゲン、つまりアレルギーのもとになる物質を身の回りから除去することです。

#### スキンケア

皮膚を清潔に保つことによって、細菌や、皮膚についたアレルゲン、

あるいは汗による刺激を防ぐということ、それから保湿剤を塗ることによって、皮膚をしっとりした状態に保つということです。これによって皮膚のバリア機能が回復し、アレルギーなどの侵入を防ぐことができます。

#### 外用剤による炎症の制御

ここでは副腎皮質ホルモンつまりステロイド外用剤の使用が中心となります。ステロイドについては、これまで副作用の問題だけがクローズアップされていて、「怖い薬」あるいは「危険な薬」というイメージでとらえる方が多くなってしまったように思いますが、決してそうではなくて、有効性については高いエビデンスがありますし、適切な使い方をすれば局所的な副作用もそれほど問題にはなりません。完治をもたらす理想的な薬ではないかもしれませんが、良好なコントロールを得るためには必須のものであると考えております。

#### Q ステロイド外用剤以外に有効な薬は開発されていないのでしょうか？

A 炎症を抑えるもう一つの外用剤として、5年前に発売されたタクロリムス外用剤があります。免疫調整外用剤ともいいますが、局所的な副作用が少なく、ステロイドの副作用がとくに問題となる部位の顔やくびに使いやすい外用剤です。こういった薬剤をうまく使って、皮膚の炎症をしっかり抑えることが3番目の治療の柱になります。

#### Q 最後にアドバイスをお願いします。

A 環境の整備、スキンケア、そして外用剤による炎症の制御、この3つのどれが欠けてもアトピー性皮膚炎の治療はうまくいきません。いろいろやることあって大変だと思いますが、最も大事なことは、「1日2回しっかり薬を塗る」ということです。1日1回では不十分なので、朝と夜の2回、30分ずつ時間をとって、1人で塗るのではなくて、ご家族も一緒になってきちんと塗ってあげることです。これはかなり大変なことだと思いますが、まずこれを実践していただくことが、良好なコントロールへの第一歩といえると思います。